

平成25年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学された317名の皆さん、誠におめでとうございます。

この入学式に列席している理事、副学長、研究科長及び教職員とともに、皆さんの入学をお祝いいたします。

さて、皆さんは、今日から学問を志す研究者として、自らが強い意思を持ち、ひたすら真実を追い求める生活に入ることになります。今までは、人から学ぶという側面が多かったと思いますが、これからは自らが主体となって、研究テーマを設定し、それに向かってがむしゃらに突き進むことが求められます。

昨年、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授は、サンフランシスコにあるグラッドストーン研究所において、当時の研究所の所長ロバート・メーリー先生から、「VW」の大切さを教わったと言います。「研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけではなく人生にとっても大切なのは、VWだ。VWは魔法の言葉だ。」と。

VWのVは、Vision（ビジョン）のV、Wは、Work hard（ワークハード）のWということです。研究者として、また一人の人間として成功するには、ビジョンとハードワークの両方が不可欠だということです。日本人は、ハードワークは得意だが、何のためにそれを行っているのか見失っている人が多いという、この言葉は傾聴に値します。

私も、どちらかというハードワークに傾きがちですが、確かに、明確なビジョンのもとにやってきたことは、前進しているという自覚が持てます。研究でいうと、何のためにそれを行うのか、どういう問題意識からそれを行うのか、それは本当に行う価値があるのか、といったことを突き詰めて、実際に研究に入るといことは極めて重要です。是非、意識して欲しいと思います。

また、研究に身を置いた一先輩として、一言申し上げたいと思います。

「蛸壺や はかなき夢を 夏の月」、という松尾芭蕉の俳句があります。これは“月がこうこうと夜の海面を照らす海の底で、蛸壺のタコはとられの身とも知らず、何とはかない夢をむさぼっていることだろう”という意味に解釈されています。一般に専門分化されることによって、閉ざされる思考を戒めた俳句とされていますが、一方、“蛸壺を出て海底から水面へだんだん浮かび上がると、明るい月の光に導かれて自己を閉ざした垣根が無くなり、より高次の世界に自分を開いて行くこと”との解釈もあるようです。皆さんは、蛸壺に閉じこもるのではなく、異分野・異領域の学問にも広く目を向け、間口の広い研究を展開して下さい。

皆さんは、これから香川大学での勉学や生活が始まりますが、この香川大学に在ることを、強みとし、心から誇りに思っ欲しいのです。現代の若者の多くは、大都市志向の風潮があると思いますが、地方にいたということは、個性豊かな歴史と風土の中で生活をしてきたということであり、それは今後の研究生活、そして将来の社会生活において、皆さん自身の人間的な味わいや説得力のある、ものの考え方、そして仕事力

として表れてきます。

この度、香川大学の大学院に入学された皆さんが、大きな自信と希望を持って、さらに前進することを期待し、私からのお祝いの言葉といたします。

平成25年4月4日

香川大学長 長尾 省吾